

(2) 聖ヶ丘商店街の成り立ちと現状把握

今年度の「ぼんぽこ」プロジェクトでは昨年までとは視点を変え、聖ヶ丘商店街全体の問題について調査を実施した。2011年に商店街からスーパーが撤退し、(株)コミュニティネットが運営する住宅型老人ホームが開業するなど、聖ヶ丘地域は大きく変化を続けている。現状と課題点等を正確に把握し、今後の活動に活かすことが出来るのではないかと考えたからだ。そのために聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会会長兼館長には、2回のインタビュー調査にご協力いただいた。調査を活かして、最終的には「ぼんぽこ」を聖ヶ丘商店街の活性化に繋がる地域の拠点になるような場所にするという目的を達成するためだ。また、現状だけでなく聖ヶ丘商店街の成り立ちを知るために資料を活用して聖ヶ丘商店街について調べた。

(3) 「多摩の杜」クッキーシールの制作

「時の会」岡崎理事長から、ぐりーんぴーす工房新商品贈答用クッキー「多摩の杜」に使用する袋に貼付するシールの制作を依頼されたことから、今回、シールは大学内でコンピュータグラフィックを専門とする彩藤ゼミにお願いすることにした。彩藤ゼミでは、8月中旬にゼミ内コンペを開催。現在、作品の制作が進んでいるところである。多摩大学ならではのゼミ間連携で、「ぼんぽこ」と多摩大のゼミとのコーディネーターとしての新たな役割を模索した。

(4) 地域行事への参加

私たちが「ひじり館こども祭り」に参加した目的は、直接、聖ヶ丘商店街の現状を把握すること、どのような方々が住み、ひじり館を利用しているのか、地域の方々のニーズを探るためでもあった。聖ヶ丘に在住している人達の多くは高齢者である。一方で、ひじり館を利用者には、こども達も多く含まれていた。主に小学1年生～中学2年生の児童がひじり館を利用していることが分かった。こども祭りに参加して感じ取れたことは、幅広い年齢層の人々が聖ヶ丘には在住しており、思っていたより活気と笑顔が溢れていることだ。夏休みということあってこども達が多く集まり、ひじり館はこども達の笑顔でいっぱいだった。

聖ヶ丘商店街を活性化させるためには子供たちとお年寄りとの「世代間交流」が必須になってくるのではないかと考えられる。今後、世代間交流をテーマとした企画立案を行っていきたい。

(5) 調布市・多摩市・府中市、3市合同イベントへの参加

昨年の12月21日に、新宿駅西口イベント広場にて3市合同イベントが行われた。このイベントには、梅澤ゼミの学生、交換留学生がお手伝いとして参加した。広く多摩地域の障害者事業所との交流ができ、大変貴重な場であった。

イベントに参加して各事業所で働いている障がい者が作り上げた、製品を販売することに我々は感銘を受けた。こうした活動を通じて、少しでも多摩地域のことや障がい者の自立支援をサポートできるような環境を作り上げていくことが大切だと感じた。後日、新聞に掲載された今回のイベント記事を読み、障がい者に対する待遇状況の悪さに驚きを隠せなかった。時給350円という驚きの数字を目にし、障がい者における環境の整備が必要であると考えた。

4. 今年度の活動の成果、改善点

1年間の活動成果としては、前年度までと視点を変えて活動を行ったことだ。従来は「ぽんぽこ」の宣伝活動が中心だったが、聖ヶ丘商店街まで範囲を広げたことで視野が広がった。

また、ひじり館の館長さんから「梅澤ゼミでひじり館にサークルを作り、イベントを企画運営してくれないか」と依頼を受けたのも大きな成果である。来年度の活動に向けて検討していかなくてはならない。館長さんからのお話を含め、もっと積極的に色々な活動に取り組む必要がある。今年度は会議で活動内容を決めてから行動するまでの動きが遅いことや、実行していないことが多かった。聖ヶ丘商店街の現状を知る活動も本来はアンケートを作成し、色々な人たちにお話を聞くという活動の筈だったが、実際には行えなかった。このようなことがあるとお店側にも大きな迷惑がかかってしまう。来年度は会議で話し合い決定したことなどは確実に行動していかなくてはならない。

5. 今後の課題

- ・「ぽんぽこ」の広報活動の再検討。→中村そのこゼミへ
- ・子どもたちと高齢者がつながる仕組みづくり、ひじり館イベントの企画運営。
- ・聖ヶ丘商店街、聖ヶ丘エリアについての知識の深堀り。
- ・夏祭り、ひじり館祭りなど地域行事への積極的参加。
- ・ゼミ間連携におけるコーディネーター役の仕組みづくりの検討。

6. まとめ

今回、聖ヶ丘商店街は様々な問題を抱えていることが分かった。近年は、近隣の大型ショッピングセンターにお客を奪われてしまい、商店街全体の利用者が減少傾向である。住民からの強い要望により、駐車場を設置した。これに伴いマイカーで外に買い物に行く住民が増えてしまった現状が聖ヶ丘商店街にはあった。お年寄りも、多摩市が提供しているバスの無料パスを利用して、聖蹟桜ヶ丘駅や永山駅周辺に出て行った方が便利だとの考え、商店街を利用しない。この課題をどのように解決していくか、大きなすぎる課題である。

「ひじり館子ども祭り」(8月)、「ひじり館祭り」(10月)に参加し、地域との交流を積極的に図ることが出来たのは大きな収穫であった。

また、今回初めて参加させていただいたイベントでは、新宿駅西口のイベントコーナーで開催された「3市合同イベント」にも我々多摩うどん「ぽんぽこ」プロジェクト、梅澤ゼミ生の皆様には参加して下さった。イベントに参加して見えてきたことは、障がい者の自立支援を支えていくことは非常に大切であることだと感じ取れたことだ。私たちが普段目に見えないことが、今回のイベントに参加してわかったことであり、障がい者の自立支援を支えていくことが地域の活性化に繋がってくると考えられる。

7. 謝辞

何事も時間の掛かる我々の作業にお付き合いいただき、多々ご迷惑をおかけしている社会福祉法人「時の会」理事長、「ぽんぽこ」店長、インタビューにご協力いただいた聖ヶ丘コミュニティセンター館長に心よりお礼申し上げます。